

Agilent EEsof EDA

ADS 2008 (Rev.500)

アップデート/インストール手順書

for Solaris 10, Red Hat Enterprise Linux WS 4.x,

Novell SUSE Linux Enterprise Server 9

Part 2 : インストールの実施

(注意) この手順書はシステム・マネージャ向けに書いてあります。一通りお読みいただき、内容を十分ご理解された後、作業を始めてください。

また、このマニュアルは、**Advanced Design System 2008 (Rev.500)**を元にかかれてあります。

- ◇ この手順書には、Advanced Design System (ADS) 2008を UNIX、および、Linuxシステムにインストールする手順が書いてあります。

新製品、不具合情報はホームページでご覧いただけます。

<http://www.agilent.com/find/eesof-support-japan>

EDAテクニカルサポートの電話番号・FAX 番号・ E-Mail アドレスを再度ご確認ください

名 称 : EDAテクニカルサポート
〒192-8510 東京都八王子市高倉町 9-1 アジレント・テクノロジー株式会社 八王子本社 MS B5-2-4
電 話 番 号 : 0120-560-119
F A X 番 号 : 0120-890-119
E - M a i l : eesof-japan_support@agilent.com

なお、EDAテクニカルサポートにご質問をいただく場合は、必ずお客さまのシステムハンドル番号を受付にお伝えください。また、EDAテクニカルサポートでは、OS (Solaris, Linux, Windows) に関するご質問は承っておりませんので予めご了承ください。

EDAテクニカルサポートへご質問の FAX を送信する場合は、本手順書の **3-2 節 「EDAテクニカルサポート サポート依頼 FAX シート」** をご利用いただくと便利です。

次の問題確認項目を参考にさせていただくとより早いご回答が期待できます

- (1) 何をしようとしていましたか。
- (2) どうなるはずだ、またはどうなって欲しいと考えていますか。
- (3) 何が起きていますか。
- (4) どんなエラー・メッセージ、エラー番号が出ていますか。
そのエラー・メッセージはOS側のものですか、それともソフトウェア側のものですか。
そのエラー・メッセージはどこに表示されていますか。
データベースで検索するため、エラー・メッセージは正確にお知らせください。
- (5) この問題はいつから発生していますか。
- (6) この問題はときどき発生しますか、または必ず発生しますか。
- (7) ときどき発生する場合は、どんな時に発生しますか。
- (8) 今まででは正常に動作していましたか、または今回が初めてのご使用ですか。
- (9) 問題発生前に、何か変更なさいましたか。(ハードウェア、ソフトウェア、設定など)
- (10) すでに何かの問題解決の手を打たれましたか。その結果はどうでしたか。

Version	作成/改訂日付	変更内容
1.0	2008/02/01	初版作成

Mentor Graphicsは、Mentor Graphics Corporationの商標です。

Microsoft®、Windows®、MS Windows®、Windows NT®、MS-DOS®は、Microsoft Corporationの登録商標です。

Pentium®は、Intel Corporationの登録商標です。

PostScript®、Acrobat®は、Adobe Systems Incorporatedの商標です。

UNIX®は、Open Groupの登録商標です。

Java™は、Sun Microsystems Inc.の商標です。

SystemC®は、Open SystemC Initiative, Inc.の登録商標です。

MATLAB®は、The Math Works, Inc.の登録商標です。

HiSIM2のソース・コード、全ての著作権、企業秘密、および、他の知的所有権は全て、広島大学と STARCが所有します。

その他、会社名、製品名は各社の商標および登録商標です。

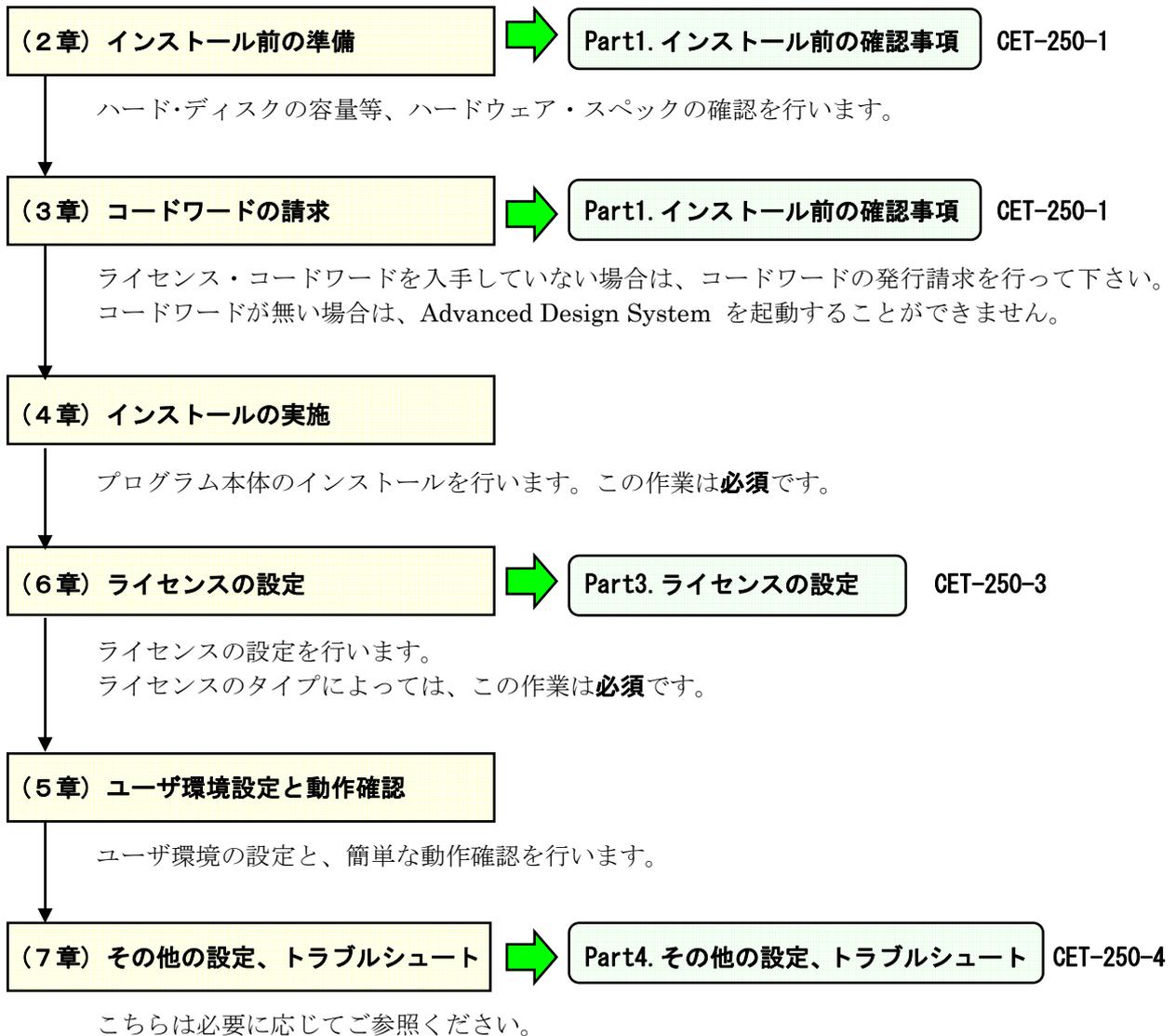
目次

4章 インストールの実施	1
4-1 本書の構成.....	1
4-2 概要とアップデートの注意	2
4-3 インストールの実行	4
4-4 FLEXid ドライバのインストール (32-bit 版 Linuxのみ).....	14
4-5 ライセンスの確認.....	16
4-6 [参考] 後から一部のファイル・セットをインストールする方法.....	18
4-7 [参考] アンインストールの方法	19
5章 ユーザ環境設定と動作確認	20
5-1 ユーザ環境の設定	20
5-2 ADS 2008 を初めて起動する際の注意事項.....	22
5-3 アプリケーションの起動.....	26
5-4 サンプル・ファイルによる動作確認.....	27
5-5 ADS 2008 が起動しない時.....	35

4章 インストールの実施

4-1 本書の構成

セットアップの流れと本書の構成の関係を下図に表します。Advanced Design System をインストールして、使用できるようになるまでには、基本的に以下の作業が必要になります。



Part1. ~ Part4.は、それぞれ独立した文書となっています。
必要に応じて、それぞれご参照ください。

4-2 概要とアップデートの注意

この章では、ADS 2008 のインストール方法について解説します。
一通りお読みになり、内容をよくご理解の上、手順通りに実行してください。

インストールはインストーラを用いて行われます。

インストール用のファイルは、**Agilent EEsof ナレッジセンタからのダウンロード**、および、**DVD-ROM メディア**によって供給されます。(DVD-ROMメディアの配布開始は 2008年 2月下旬以降を予定)

ダウンロードの方法については、

Part1. インストール前の確認事項 2-1 節「インストール・ファイルの確認」
をご参照ください。

インストール前に、**ハード・ディスクの空き領域**をもう一度ご確認ください。

ダウンロードしたアーカイブ・ファイルからのインストールの場合は、アーカイブ・ファイル **ads330r500_sun_sparc.tar**、または、**ads330r500_linux_x86.tar** と展開後のファイル・セットで**それぞれ 1.3GB**、インストール後の ADS 2008プログラムで**最大 5GB**のディスク領域を使用します。

DVD-ROMからのインストールの場合は、ADS 2008プログラムで**最大 5GB**のディスク領域を使用します。

また、古いバージョンの Advanced Design System をアンインストール（削除）したい場合は、OS の **rm** コマンドを用いて、インストール・ディレクトリ下のファイルを削除してください。

実行例)

```
# rm -rf /usr/local/ADS2006A
```

重要 ADSのプロジェクト (Schematic、Layout 等を含む) は、基本的に上位互換です。旧バージョンで作成したプロジェクトは、そのまま ADS 2008 でご利用いただくことができます。ただし、ADS 2008 では、ADS 2006、ADS 2005A、ADS 2004A、および、ADS 2003C に対して、プロジェクトの下位互換性を持っており、これらのバージョンでは、ADS 2008 で作成・編集したプロジェクトを開くことができます。

ただし、ADS 2008では 2GB以上のサイズを持つデータセットに対応した為、ADS 2008で生成したデータセット・ファイルを ADS 2006 以前で参照することはできません。

ADS 2008 でシミュレーションを行った後、そのプロジェクトを ADS 2006以前で使用する場合は、事前に ADS 2008 付属のユーティリティ **dsconvert** でデータセット・ファイルのフォーマット変換作業が必要です。

ADS 2003A 以前のバージョンでは、一度 ADS 2008 で編集を行ったプロジェクトを開くことができません。このため、アップデートを行う前に使用しているプロジェクトのバックアップを取っておくことを強くお勧めいたします。

また、旧バージョンの ADSも、ハード・ディスク容量に余裕がある場合はすぐに削除せず、ADS 2008 への移行に問題が無いことをご確認いただいた上で、アンインストールしてください。

また、ADS 2008 を起動するにはインストール後、**ライセンスの設定が必要**です。

ADS 2008 を動作させるには、新しいライセンス・コードワードが必要になります。ADS 2006 以前のライセンスではご利用いただくことはできません。

必ず、事前に **ADS 2008 用ライセンス・コードワードの発行申請**を行い、ライセンス・ファイルを手してください。

ライセンスの仕様、設定方法については、

Part3.ライセンスの設定 6章「**ライセンスの設定**」

をご参照ください。

また、ADS 2008 用ライセンス・コードワードの発行手配の方法に関しては、

Part1.インストール前の確認事項 3-1節「**コードワード発行依頼の方法**」

をご参照ください。

4-3 インストールの実行

以下の作業は、**管理者権限を持つユーザ・アカウント**にて実行してください。

実行例は、Red Hat Enterprise Linux WS 4.0 環境で、インストールを行っています。

(1) インストーラでの操作

インストールを始める前に、インストーラと、ダイアログ・ボックス中で行える共通の操作を以下に示します。



■ インストールを中止するには

ダイアログ・ボックス上の **[Cancel]** ボタンをクリックしてください。[Cancel Installation]ダイアログ・ボックスが現れますので、**[Quit]** ボタンをクリックすると、インストールは中止されます。



■ ひとつ前のセットアップ・スクリーンやダイアログ・ボックスに戻るには

ダイアログ・ボックス上の **[Previous]** ボタンをクリックしてください。

■ 次のセットアップ・スクリーンに進むには

1. 選択を要求されている場合は、目的のボタン、チェック・ボックス等をクリックします。
2. ダイアログ・ボックスの **[Next]** ボタンをクリックしてください。

(2) インストーラの起動

インストーラを起動します。

ターミナル・ウィンドウを開き、カレント・ディレクトリをダウンロードしたアーカイブ・ファイル **ads330r500_linux_x86.tar** の展開先ディレクトリ、または、DVD-ROMメディアのトップ・ディレクトリに変更してください。

```
# cd /disk/work/ads2008    (例：アーカイブ・ファイルの展開先)
```

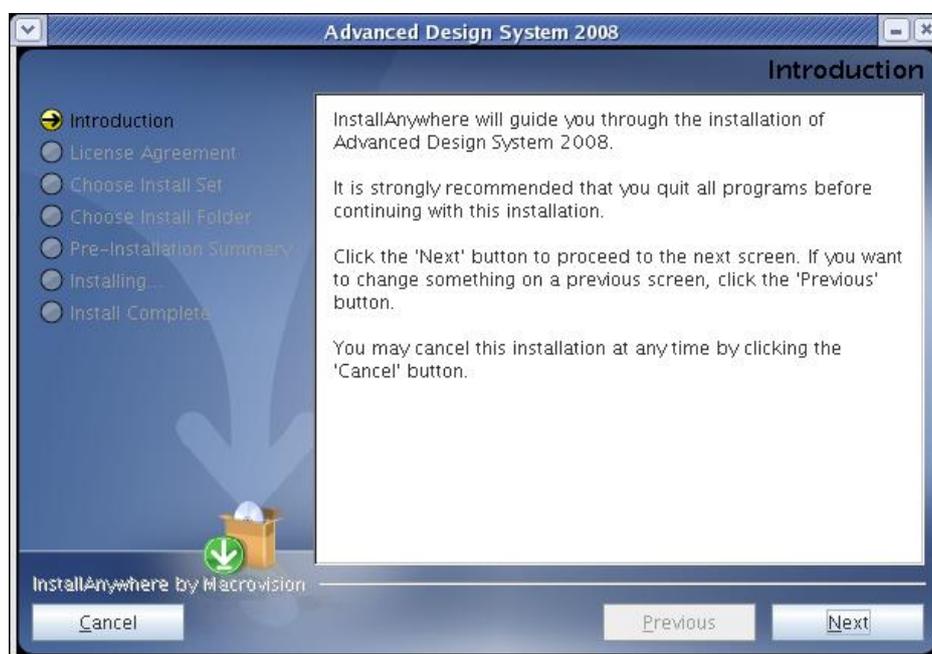
このディレクトリには、以下のような 2つのサブ・ディレクトリと 1つのシェル・スクリプトが存在します。



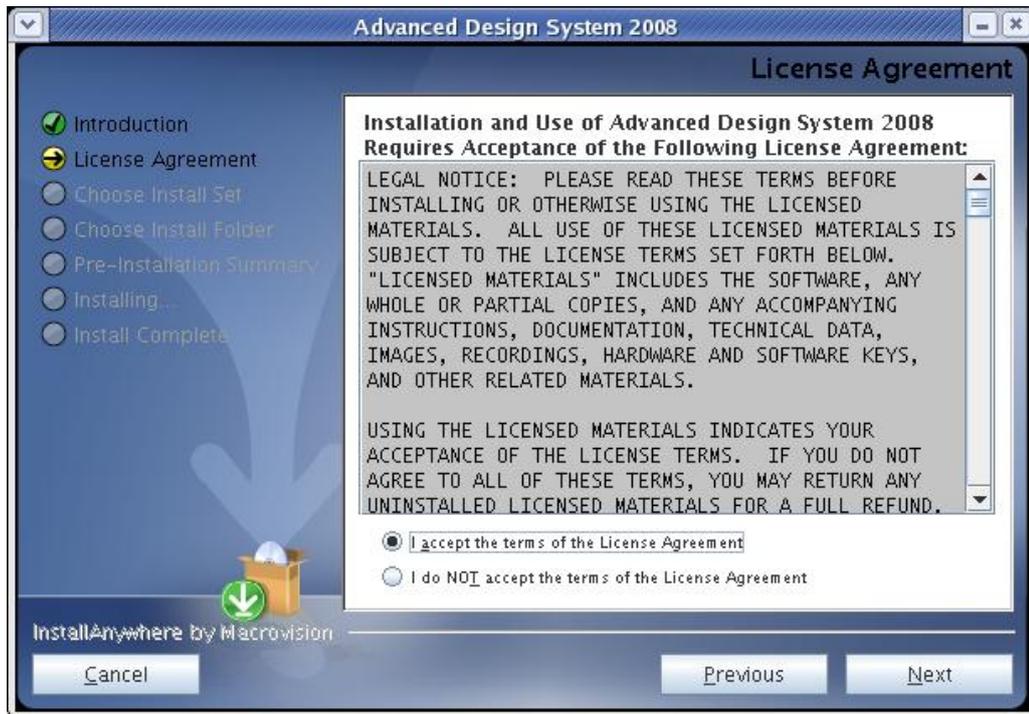
シェル・スクリプト **SETUP.SH** を実行します。

```
# ./SETUP.SH
```

以下のような、[Introduction] ダイアログ・ボックスが現れますので、[Next] をクリックして先に進みます。



(3) ライセンス使用許諾の確認



[License Agreement] ダイアログ・ボックスが現れます。必ずよく読み、同意できる場合のみ
○ **I accept the terms of the License Agreement**
をクリックしてください。

このライセンス使用許諾書は ADS を起動するために必要であるライセンス (ライセンス・コードワード) とは、関係がありません。

[Next] をクリックしてください。

(4) インストール方法の選択

[Choose Install Set] ダイアログ・ボックスが表示されます。



① **Complete** (完全インストール) 【推奨】

ADS 2008 の全てのファイル・セットをインストールします。ハードディスクの空き容量は、約 4.82GB が必要です。

インストールされるファイル・セットの種類は、(6) 表4-1 を参照してください。

通常は、これを選択してください。

② **Custom** (カスタム・インストール)

インストールするファイル・セットを自由に選択することができます。

インストールできるファイル・セットの種類は、(6) 表4-1 を参照してください。

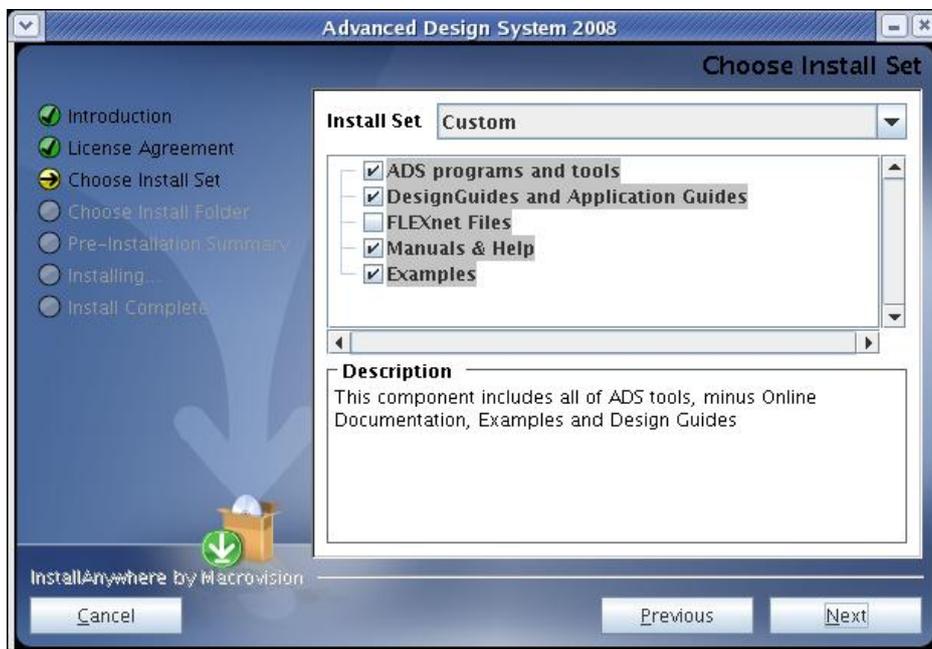
選択を行ったら、[Next] をクリックしてください。

Complete を選択した場合は、(7) に進んでください。

Custom を選択した場合は、(5) でファイル・セットの選択を行います。

(5) ファイル・セットの選択 (カスタム・インストールの場合)

(4) で、**Custom** を選ぶと、[Choose Install Set] ダイアログ・ボックスが現れます。



[Install Set] フィールドに、チェック・ボックス付きのファイル・セット名がリスト表示されていますので、この中から必要な全てのファイル・セットのチェック・ボックスをチェックします。(6) 節で各コンポーネントの簡単な説明をします。

[Description] エリアには、[Install Set] で選択(色が反転)しているファイル・セットの簡単な説明が表示されます。

必要なファイル・セットの選択が全て終了したら、[Next] をクリックして次に進みます。

(6) コンポーネントの種類

■ ADS 2008 のファイル・セット (表4-1)

ファイル・セット	概要
ADS programs and tools (約 2.03GB)	ADS の基本コンポーネント。ADSを起動する為に必要な、最小限のファイル・セット
Design Guides and Application Guides	デザイン・ガイド、および、アプリケーション・ガイド
FLEXnet Files	ライセンス・サーバとして使用する為の FLEXnetライセンス管理ソフトウェア
Manuals & Help (約 674MB)	ADSのオンライン・マニュアルと、検索ツールです。HTML でかかれていますので閲覧するためには WEB ブラウザが必要になります
Examples (約 1.04GB)	検索エンジンを含む、ADSのサンプル・プロジェクト

 枠内は **Complete** インストールでインストールされるコンポーネントです。

ADSのプログラムを実行する最小限のファイル・セットのみインストールする場合は、**Custom** インストールで “**ADS programs and tools**” のみを選択してください。

(7) インストール・ディレクトリの指定

[Choose Install Folder] ダイアログ・ボックスが現れます。ここでは、ファイル・セットのインストール先を指定します。

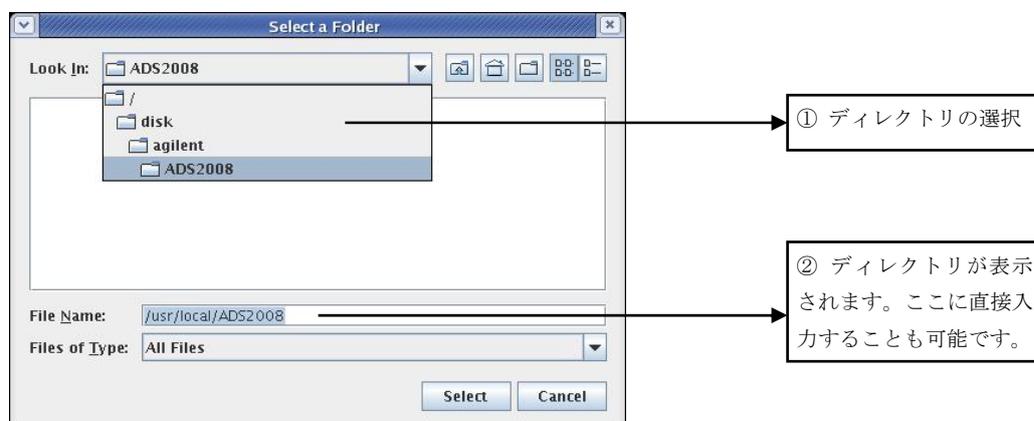
- 1) インストール先のディレクトリを決定します。



- ① システム標準のディレクトリに、ADS 2008 をインストールする時は、そのまま **[Next]** をクリックします。初期設定値は“/usr/local/ADS2008”です。
- ② それ以外のディレクトリ（既存ディレクトリ、新規ディレクトリ、ネットワーク・ドライブ）にインストールする場合は、**[Choose...]** をクリックします。**[Select a Folder]** ダイアログ・ボックスが現れます。

なお、ADS 2008 以前のADSがインストールされている場合には、そのインストール・ディレクトリに ADS 2008 を上書きインストールしないようご注意ください。

2) 標準以外のディレクトリにインストールする場合の手順は以下のようになります。



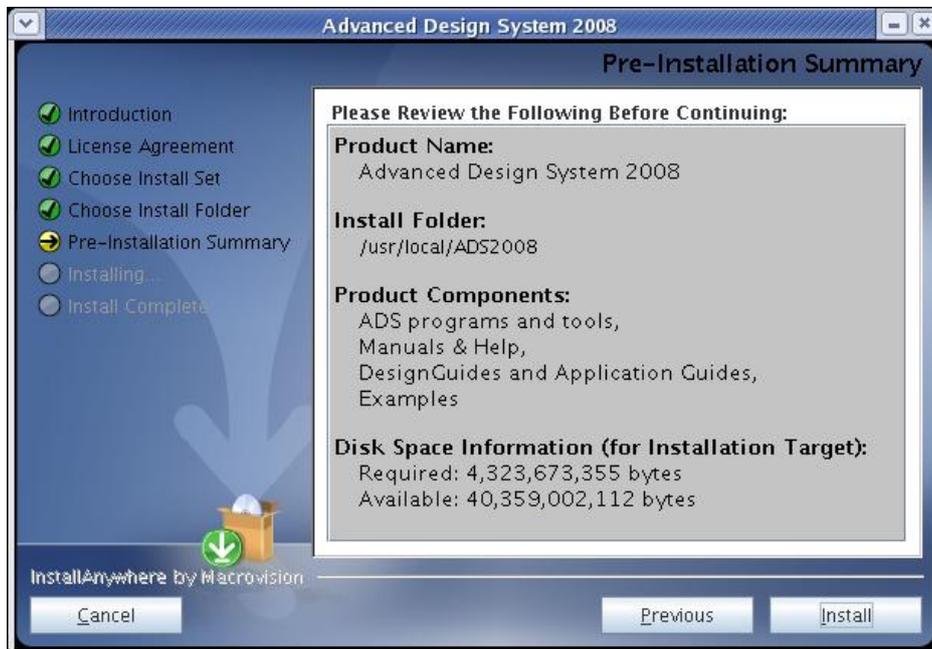
- ① **[Look In:]** のプル・ダウン・メニューを用いて、インストールしたいディレクトリを探し、ディレクトリ名をクリックして選択します。
- ② **[File Name:]** フィールドに目的のパス名が現れたら、**[Select]** をクリックします。もしディレクトリが無い時は、ここにディレクトリ名をキーボードから直接入力してください。その場合ディレクトリは新しく作られます。

指定したパスがハードディスク上に存在しない時は、自動的にディレクトリが作成されます。この時確認メッセージ等はできませんのでご注意ください。

注意 インストール・ディレクトリとして、ハードディスクのルート・ディレクトリを設定しないでください。ADS 2008は正常に動作いたしません。

(8) セットアップ情報の確認

[Pre-Installation Summary] ダイアログ・ボックスが現れます。
ここでは、セットアップ情報の確認を行います。問題が無ければ、**[Install]** ボタンをクリックして、インストールを開始します。



(9) インストール作業の開始

以上が終わるとインストールが始まります。画面右下に進捗状態の表示ウィンドウが現れ、インストールの進行状態を表示します。



(10) インストール作業の終了

全てのインストールが終わると、[Install Complete]ダイアログ・ボックスが表示されます。**[Done]** ボタンをクリックしてください。



4-4 FLEXid ドライバのインストール (32-bit 版 Linuxのみ)

この節は、Linux環境において、USB接続のハードウェア・キーに対してライセンス・コードワードを取得された方のみ、お読みください。

重要 Linux OS では、パラレル・ポート接続ハードウェア・キーをサポートいたしません。

重要 64-bit 版 Linux OS では、USB接続ハードウェア・キーをサポートいたしません。

ADS 2008 では、32-bit Linux OS 環境において、セキュリティ・デバイスとして、PCのUSBポートに接続する形式のハードウェア・キーに対して、ライセンス・コードワードを発行することが可能です。

USB接続のハードウェア・キーを使用する場合は、必ず FLEXid ドライバのインストールを行ってください。

重要 Linux 版の ADS 2008 では、Uncounted タイプのノードロック・ライセンス (通常 Windows版で使用) を利用することができません。
Counted タイプのライセンスが必要となり、ライセンス・サーバの設定が必須となります。

以下に FLEXid ドライバのインストール手順を記します。作業は**管理者権限を持つユーザ・アカウント**で行ってください。

ターミナル・ウィンドウを開き、カレント・ディレクトリをダウンロードしたアーカイブ・ファイル **ads330r500_linux_x86.tar** の展開先ディレクトリ、または、DVD-ROMメディアのトップ・ディレクトリに変更してください。

```
# cd /disk/work/ads2008 (例：アーカイブ・ファイルの展開先)
```

このディレクトリには、以下のような 2つのサブ・ディレクトリと 1つのシェル・スクリプトが存在します。



カレント・ディレクトリを **dongle_sup** サブ・ディレクトリに変更してください。

```
# cd dongle_sup
```

dongle_sup ディレクトリには、以下のようなファイルが存在します。



- aksusbd-redhat-1.8.1-3.i386.rpm Red Hat Enterprise Linux WS 4.x 用
- aksusbd-suse-1.8.1-3.i386.rpm Novell SUSE Linux Enterprise Server 9 用

下記のように rpm コマンドを用いて、インストールを行います。

```
# rpm -i aksusbd-redhat-1.8-1-3.i386.rpm
```

FLEXid ドライバをインストールしたら、USBハードウェア・キーを USBポートに接続して、lmutil コマンドを用いて FLEXid情報を正しく取得できるかどうかをご確認ください。

```
$ <ADS 2008 インストール・ディレクトリ>/licenses/bin/lmutil lmhostid -flexid  
lmutil - Copyright (c) 1989-2007 Macrovision Europe Ltd. and/or Macrovision Corporation. All Rights Reserved.  
The FLEXnet host ID of this machine is "FLEXID=9-08C99148"  
Only use ONE from the list of hostids.
```

FLEXidはハードウェア・キー表面に貼付されたシールにも印刷されていますので、ユーティリティの表示と合致することをご確認ください。

4-5 ライセンスの確認

プログラムのインストール作業が終わったら、**ADS 2008 用のライセンス・コードワードの確認**を行ってください。

□ まだ ADS 2008 用のライセンス・ファイルを手に入っていない場合

Part1.インストール前の確認事項 3-1 節「コードワード発行依頼の方法」を参照して、ライセンス・コードワードの発行手配を行ってください。

□ ライセンス・コードワードを収めたファイル license.lic を入手済みの場合

□ ライセンス・コードワードがノードロック(Uncounted)タイプの場合

license.licファイルをテキスト・エディタで開きます。

```
INCREMENT ads_datadisplay agileesofd 2.7 22-jul-2009 uncounted ¥  
VENDOR_STRING="00022ADD31FF : P02GAZU DWSGSOQ J2HISCZ LWDGKCK ¥  
ELRXYGS OMWYFKG PAKBPON XLYWS" START=22-jan-2008 SIGN="004A ¥
```

先頭に SERVER行、VENDOR行が無く、INCREMENT行一行目の日付（有効期限）に続く記述が **uncounted** になっている場合は、**Uncountedタイプのノードロック・ライセンス**です。

このタイプのライセンス・コードワードは、**Solaris / Linux 環境では使用できません。**

Part1.インストール前の確認事項 3-1 節「コードワード発行依頼の方法」を参照して、**Counted タイプのライセンス・コードワードの再発行を依頼**してください。

□ ライセンス・コードワードがフローティング、または、ノードロック(Counted)タイプの場合

license.licファイルをテキスト・エディタで開きます。

```
SERVER licserver 00022ADD31FF  
VENDOR agileesofd  
INCREMENT ads_datadisplay agileesofd 2.7 22-jul-2009 5 ¥  
VENDOR_STRING="00022ADD31FF : P02GAZU DWSGSOQ J2HISCZ LWDGKCK ¥  
ELRXYGS OMWYFKG PAKBPON XLYWS" START=22-jan-2008 SIGN="004A ¥
```

先頭に **SERVER**行、**VENDOR**行が有り、INCREMENT行一行目の日付（有効期限）に続く記述が**数字**になっている場合は、**フローティング・ライセンス**、もしくは、**Countedタイプのノードロック・ライセンス**です。

このタイプのライセンス・コードワードの場合は、**ライセンス・サーバの設定が必要**となります。

Part3.ライセンスの設定 第6章「ライセンスの設定」に進んでください。

- 既にフローティング/ノードロック・ライセンスのライセンス・サーバが設置されており、そこからライセンスを取得する場合

この場合は、ユーザ毎にライセンス・ファイル/サーバの所在を示す**環境変数**
AGILEESOFD_LICENSE_FILE
の設定を変更する必要があります。

第5章「ユーザ環境設定と動作確認」に進んでください。

ライセンス関連の設定詳細については、

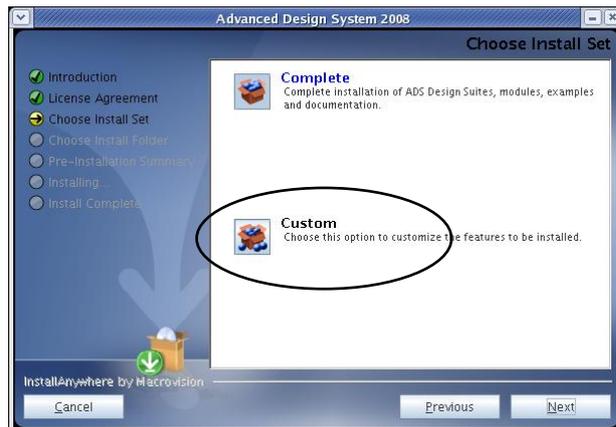
Part3.ライセンスの設定 **第6章「ライセンスの設定」**
をご参照ください。

4-6 【参考】後から一部のファイル・セットをインストールする方法

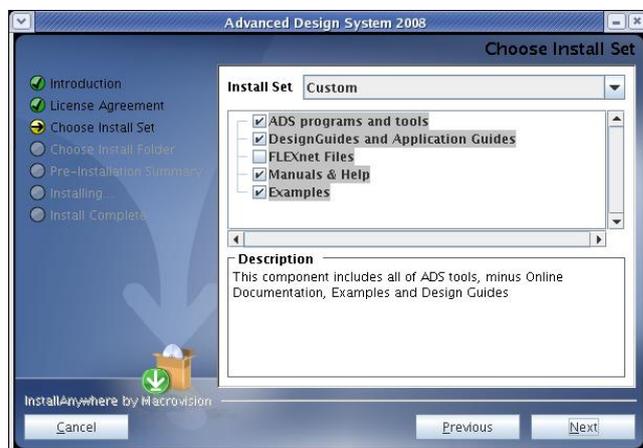
最初のインストール時にインストールを行わなかったファイル・セットは、下記の手順で追加インストールを行うことができます。

4-3節 (1) ~ (3) の手順に従い、インストーラを起動します。

[Choose Install Set] ダイアログ・ボックスが表示されたら、**Custom** を選択して **[Next]** をクリックします。



[Choose Install Set] ダイアログ・ボックスで、追加するファイル・セットのチェック・ボックスをチェックして、**[Next]** をクリックします。



[Choose Install Folder] ダイアログ・ボックスで、インストール済みの ADS 2008 のディレクトリを指定し、インストールを完了させてください。

4-7 [参考] アンインストールの方法

ADS 2008をハードディスク上から消去する場合は、OS の `rm` コマンドを使用してください。

例) ADS 2008 が `/usr/local/ADS2008` にインストールされている場合は、

```
# rm -rf /usr/local/ADS2008
```

`-r` オプションは、指定ディレクトリの階層構造を全て消去します。
`-f` オプションは、ファイル/ディレクトリ消去の確認プロンプトを表示しません。
`rm` コマンド実行時は、ディレクトリ・パスの記述に誤りが無いことを、十分ご確認ください。

5章 ユーザ環境設定と動作確認

5-1 ユーザ環境の設定

ADS 2008 を起動する為には、各ユーザ・アカウント毎に、以下の環境変数の設定が必要となります。

□ **HPEESOF_DIR** ADS 2008 のインストール・ディレクトリ・パス

例えば、ADS 2008 を /usr/local/ADS2008 にインストールした場合、

HPEESOF_DIR = /usr/local/ADS2008

□ **AGILEESOFD_LICENSE_FILE** ライセンス・ファイル、または、ライセンス・サーバ情報

ライセンス・ファイルの指定例： /usr/local/ADS2008/licenses/license.lic

AGILEESOFD_LICENSE_FILE=/usr/local/ADS2008/licenses/license.lic

AGILEESOFD_LICENSE_FILE=\$HPEESOF_DIR/licenses/license.lic

ライセンス・サーバの指定例： 【書式】 <TCP/IP port>@<サーバ・ホスト名>

TCP/IP portは省略可能です。ただし、サーバ側で固定されている場合は、記述してください。

例) @licserver1、27002@licserver2、等

AGILEESOFD_LICENSE_FILE=@licserver1

複数のライセンス・ファイルや、ライセンス・サーバを参照する場合は、: (コロン) を区切り文字として使用します。先頭から順に参照が行われます。

例) @licserver1 : @licserver2 : @licserver3

AGILEESOFD_LICENSE_FILE=@licserver1 : @licserver2 : @licserver3

□ **PATH** コマンド・サーチ・パス

\$HPEESOF_DIR/bin を、コマンド・サーチ・パスに加えます。

PATH=\$HPEESOF_DIR/bin : \$PATH

ユーザが使用するコマンド・シェルにより、記述方法が異なります。

■ **B / K shell、bash** の場合

ホーム・ディレクトリの **.profile** (bash の場合は **.bash_profile**) に記述します。

記述例)

```
HPEESOF_DIR = /usr/local/ADS2008 ; export HPEESOF_DIR
AGILEESOFD_LICENSE_FILE = @licserver1 ; export AGILEESOFD_LICENSE_FILE
PATH = $HPEESOF_DIR/bin : $PATH ; export PATH
```

■ **C shell** の場合

ホーム・ディレクトリの **.cshrc** に記述します。

記述例)

```
setenv HPEESOF_DIR /usr/local/ADS2008
setenv AGILEESOFD_LICENSE_FILE @licserver1
set path = ( $HPEESOF_DIR/bin $path )
```

ウィンドウ・マネージャとして CDE を使用している場合は、ホーム・ディレクトリの **.dtprofile** に以下の変更を加えてください。

最下行の
DTSOURCEPROFILE = TRUE
のコメント記号 **#** を削除します。
DTSOURCEPROFILE = TRUE

各ファイルの編集が完了したら、設定を反映させる為に一度ログオフして、再度ユーザ・アカウントにログインしてください。

5-2 ADS 2008 を初めて起動する際の注意事項

(1) ユーザ環境設定の確認

ADS 2008 を起動する前に、ユーザ・アカウントの環境変数設定が完了しているかどうかを確認してください。

- HPEESOF_DIR
- AGILEESOFD_LICENSE_FILE
- PATH

(2) ライセンス・バンドルの選択

お持ちのライセンスがパッケージ形式(**ライセンス・バンドル**)の方は、**License Preference Tool** から使用するライセンスを選択する必要があります。

注意 License Preference Tool による設定は、ライセンス・バンドル形式のライセンスをご利用になっている方のみに必要な作業です。

それ以外の通常のライセンスをご利用になっている場合は、**5-3節**にお進みください。
ご所有の ADS 製品のライセンス形態が不明な場合は、弊社営業担当等にご確認ください。

ライセンス・ファイルでは、先頭が **ltp_**、**pl_**、**pb_**、および、**b_** で始まるライセンス・コードワードが、バンドル・ライセンスに該当します。

例) ltp_intdesrfde_combo_gg、pl_design_lib、
pb_si_designer_3、b_md1_wireless_network
ads_、mdl_、sim_、trans_ 等で始まる名称のライセンス・コードワードは、ライセンス・バンドルではありません。

ADS 2002C 以前のバージョンで使用されていたライセンス・パッケージは、ADS 2003A から**ライセンス・バンドル**に変更されました。

ライセンス・バンドルからライセンスを取得する場合は、必ず **License Preference Tool** で作業を行う必要がありますので、ご注意ください。**License Preference Tool** で使用するライセンス・バンドルを選択した後、ADS を起動してください。

注意 License Preference Tool で選択したライセンス・バンドルの情報は、各ユーザ毎に保存されます。

次回 ADS 起動時、使用するライセンス・バンドルを変更する必要がある場合は、**License Preference Tool** を起動する必要はありません。

[1] License Preference Tool の起動

License Preference Tool を起動するには、以下の二つの方法があります。

■ License Preference Tool の直接起動

ターミナル・ウィンドウから **aglmpref** を実行します。

共有ライブラリに関するエラーが表示される場合は、以下の**環境変数設定**を追加してください。

- Solaris の場合
(B/K shell)

```
LD_LIBRARY_PATH=$HPEESOF_DIR/lib/sun_sparc ; export LD_LIBRARY_PATH
```

(C shell)

```
setenv LD_LIBRARY_PATH $HPEESOF_DIR/lib/sun_sparc
```

- Linux の場合
(bash)

```
LD_LIBRARY_PATH=$HPEESOF_DIR/lib/linux_x86 ; export LD_LIBRARY_PATH
```

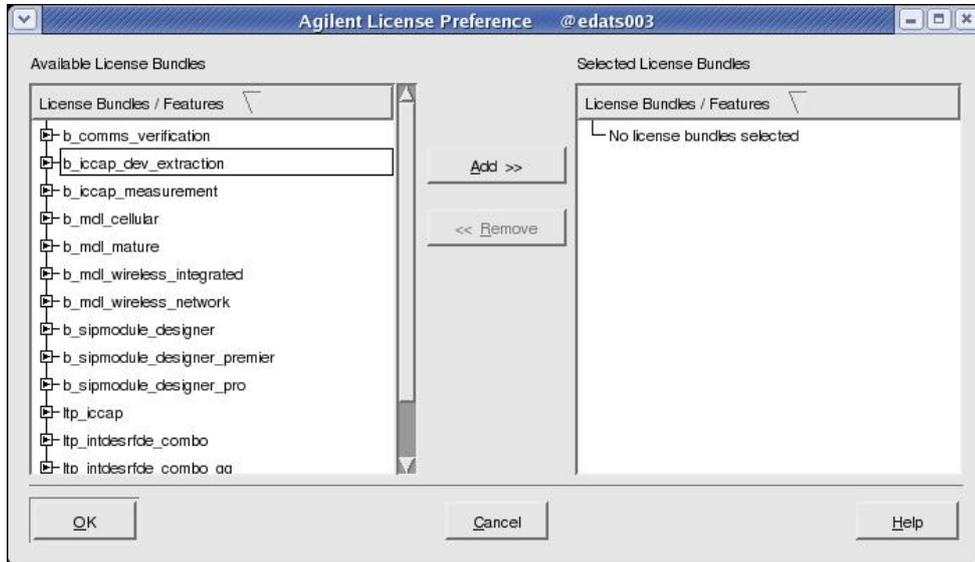
■ ADS 起動コマンドに **-p** オプションを付加

ターミナル・ウィンドウから **ads -p** を実行します。

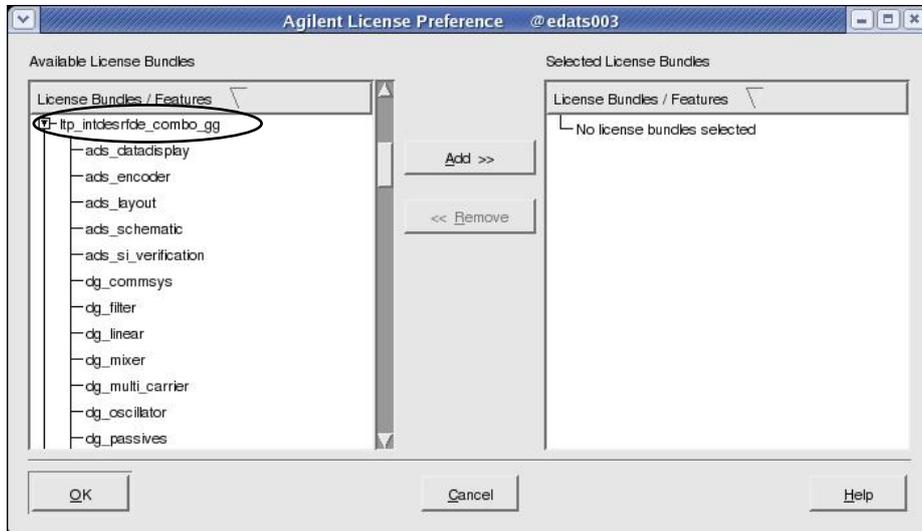
こちらの場合、License Preference Tool を終了すると、自動的に ADS が起動します。

[2] ライセンス・バンドルの選択

License Preference Tool の表示例を示します。

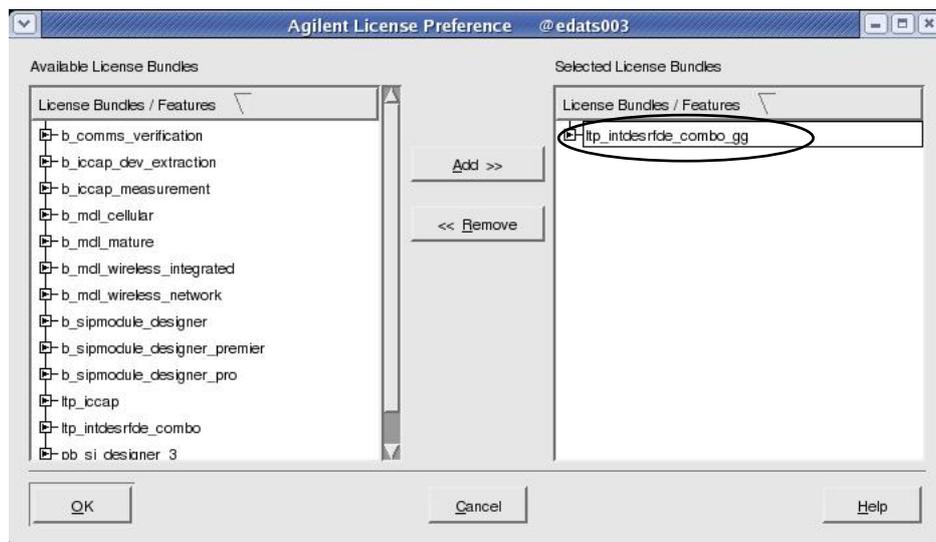


1. [Available License Bundles] に利用可能なライセンス・バンドル一覧が表示されます。バンドル名の左側の+マークをクリックすると、バンドルに含まれるライセンス一覧が表示されますので、使用したいライセンス・バンドルを探します。



2. [Available License Bundles] から、使用したいライセンス・バンドルを**一つだけ選択**し、**[Add]** ボタンをクリックすると、選択したライセンス・バンドルが [Selected License Bundles] 欄に移動します。

- ltp_**、**pl_**、**pb_** の各ライセンス・バンドルは、何れか一つしか選択することができません。
- ただし、**ltp_design_guide** は他の **ltp_** バンドルと、**pl_design_guide** は他の **pl_** バンドルと同時に選択することができます。
- b_** ライセンス・バンドルは、他のライセンス・バンドルと同時に選択することができます。



3. ライセンス・バンドル設定を解除、または、変更したい場合は、[Selected License Bundles] 欄からライセンス・バンドルを選択して、**[Remove]** ボタンをクリックします。
4. 選択が完了したら、**[OK]** ボタンをクリックして終了します。

参考 ここで設定した License Preference 情報は以下のファイルに保存されており、以後は License Preference Tool を起動しなくても、そのライセンス・バンドルを使用します。

ファイル : \$HOME/hpeesof/config/hpeesof.cfg

環境変数 : AGILEESOFD_LICPREF_<ホスト名>=<ライセンス・バンドル>

5-3 アプリケーションの起動

ADS 2008 を起動します。

ターミナル・ウィンドウを開き、下記のコマンドを入力してください。

```
$ ads
```

ターミナル・ウィンドウに下記のメッセージが表示された後、ADS のユーザ・インターフェースが起動します。

```
Agilent Technologies  
Advanced Design System  
Design Environment (*) 2008.500 Jan 22 2008  
ADS session log file : /tmp/filejZDQr2.dem
```

(ファイル名は起動毎に変わります)

ADS のバージョンが 2008、リビジョンが 500であることを確認できます。

参考 64-bit 版 OS では、**ads** コマンドで起動した場合自動的に 64-bit 版 ADS が起動します。

```
Agilent Technologies  
Using 64-bit data display and simulation settings  
Advanced Design System  
Design Environment (*) 2008.500 Jan 22 2008
```

32-bit 版シミュレータを使用する場合は、以下の何れかの方法をご利用ください

- 環境変数 **EESOF_64BIT = 0** を設定する。
- 起動コマンドに **-32bit** オプションを付記する。

```
Agilent Technologies  
Advanced Design System  
Design Environment (*) 2008.500 Jan 22 2008
```

5-4 サンプル・ファイルによる動作確認

次にサンプル・ファイルを使って、ADS 2008 が正しくインストールされたかどうかを確認します。インストール時にサンプル・ファイルのインストールを行わなかった場合は、ここでの手順(2)以降は進められません。また、**お持ちのライセンスの種類によって、ウィンドウが開かない、シミュレーションを実行できない等の制約がある場合があります**ので、ご注意ください。

以下の事例は、Red Hat Enterprise Linux WS 4.x 上で ADS 2008 (32-bit版) を用いて、マイクロ・ストリップライン・フィルタのサンプル・プロジェクト **mw_filter_prj** をオープンし、Sパラメータ特性シミュレーションを行う操作を示します。

(1) ADS 2008 の起動

ターミナル・ウィンドウから **ads** コマンドを実行して、アプリケーションを起動します。

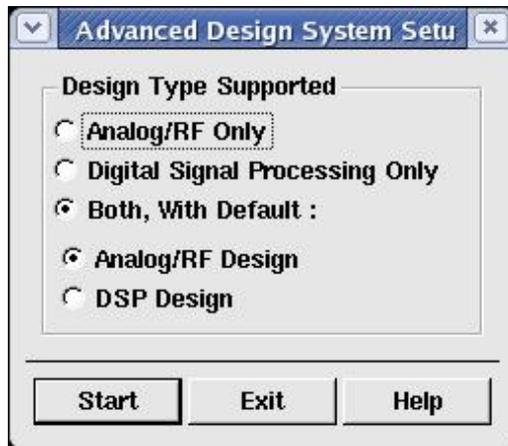
最初に ADS 2008 のバージョン等が表示されたタイトル・バーが表示されます。

```
Agilent Technologies
Advanced Design System
Design Environment (*) 2008.500 Jan 22 2008
ADS session log file : /tmp/filejZDQr2.dem
```

このメッセージの表示前、或いは、表示後にエラー・メッセージのダイアログ・ボックスが表示されて ADS が起動できない場合は、

5-5 節「ADS 2008 が起動しない時」
をご参照ください。

初めて ADS 2008 を起動した場合は、下記の [Advanced Design System Setup] ダイアログ・ボックスが表示されます。



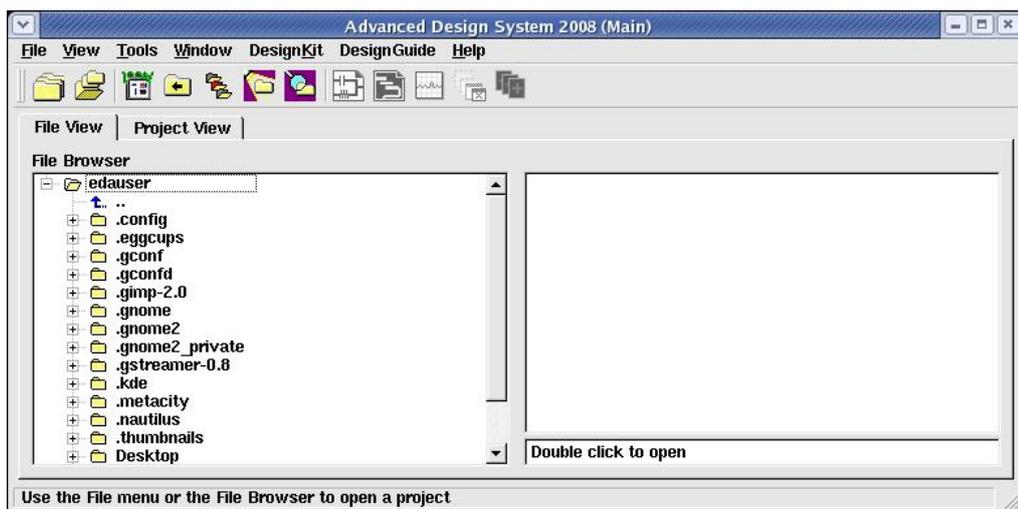
ADS 2008 を使用する時の環境を定義するウィンドウです。

- | | |
|---|-------------------------------|
| <input type="checkbox"/> Analog/RF Only | アナログ/RF回路設計用機能のみ使用可 |
| <input type="checkbox"/> Digital Signal Processing Only | デジタル信号処理回路設計用機能のみ使用可 |
| <input type="checkbox"/> Both, With Default: | 上記両方の設計用機能を使用、
初期設定を下記から選択 |
| <input type="checkbox"/> Analog RF/Design | アナログ/RF回路設計優先 |
| <input type="checkbox"/> DSP Design | デジタル信号処理回路設計優先 |

ここでは、[Both With Default :] を選択し、[Analog/RF Design] を選択します。

この設定は ADS 起動後に変更することができます。

[Start] ボタンをクリックすると、ADSのメイン・ウィンドウが表示されます。



メイン・ウィンドウの表示と同時に下図のような [Getting Started with ADS] ダイアログ・ボックスが表示されます。

下記機能のリンクをクリックするか、[Close] ボタンをクリックして、閉じてください。



Projects

- | | |
|---|-------------------|
| <input type="checkbox"/> Create a new project | 新規プロジェクト作成 |
| <input type="checkbox"/> Open an existing project | 既存プロジェクトのオープン |
| <input type="checkbox"/> Open an example project | サンプル・プロジェクトのオープン |
| <input type="checkbox"/> Open a recently used project | 最近参照したプロジェクトのオープン |

Help Center

- | | |
|--|-------------------------|
| <input type="checkbox"/> ADS Quick Start | 英語版クイック・スタート・マニュアル表示 |
| <input type="checkbox"/> Agilent EEsof Web | Agilent EEsof ウェブ・ページ表示 |
| <input type="checkbox"/> Application | アプリケーション紹介ウェブ・ページ表示 |
| <input type="checkbox"/> Customer newsletter archive | お客様向けニュース・レター・アーカイブ表示 |
| <input type="checkbox"/> Knowledge Center | Agilent EEsof ナレッジセンタ表示 |
| <input type="checkbox"/> Manuals | オンライン・マニュアル表示 |
| <input type="checkbox"/> Technical support | テクニカルサポート ウェブ・ページ表示 |
| <input type="checkbox"/> Technical support contacts | テクニカルサポートご連絡先一覧 |
| <input type="checkbox"/> Vendor libraries for ADS | ベンダー・ライブラリ提供元一覧 |
| <input type="checkbox"/> Videos | ビデオ・チュートリアル一覧 |
| <input type="checkbox"/> Web-based training | ウェブ・ベースのトレーニング一覧 |
| <input type="checkbox"/> What's New | What's New ウェブ・ページ表示 |

次回起動時にこのダイアログ・ボックスを表示しないようにする場合は、[Don't display this dialog box automatically] のチェック・ボックスをチェックしてください。

(2) サンプル・プロジェクトの読み込み

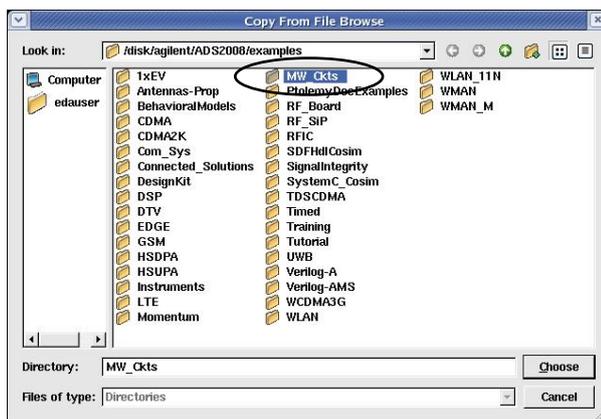
既にインストールされているサンプル・ファイルを読み込みます。

メイン・ウィンドウの **File > Copy Project** メニューで、Copy Project ダイアログ・ボックスを開きます。

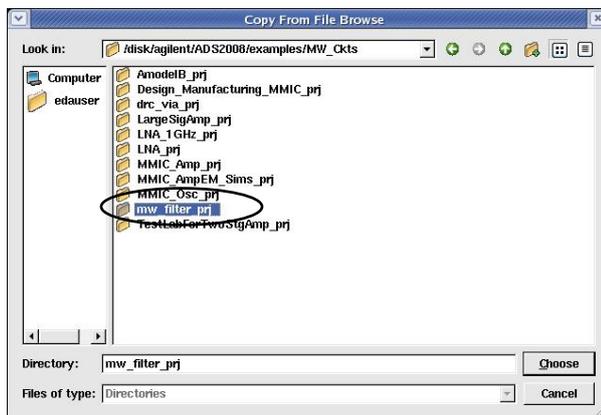


[Example Directory] ボタンをクリックすると、From Project 欄に ADS 付属のサンプル・プロジェクトが格納されたディレクトリが表示されます。

[Browse...]ボタンをクリックすると、ファイル・ブラウザが開き、サンプル・ディレクトリの内容が表示されます。

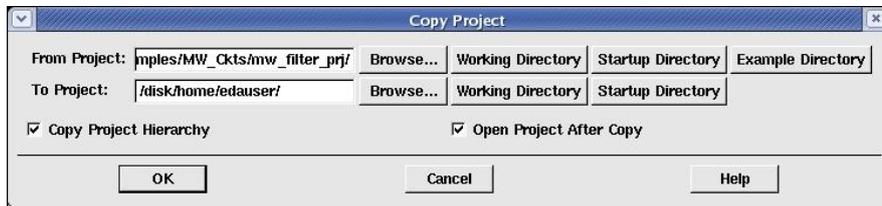


カテゴリー毎にサブ・ディレクトリに分けられていますので、**MW_Ckts** をマウスでダブル・クリックして、下の階層を表示させてください。



プロジェクト **mw_filter_prj** をマウスで選択して、[Choose] ボタンをクリックしてください。

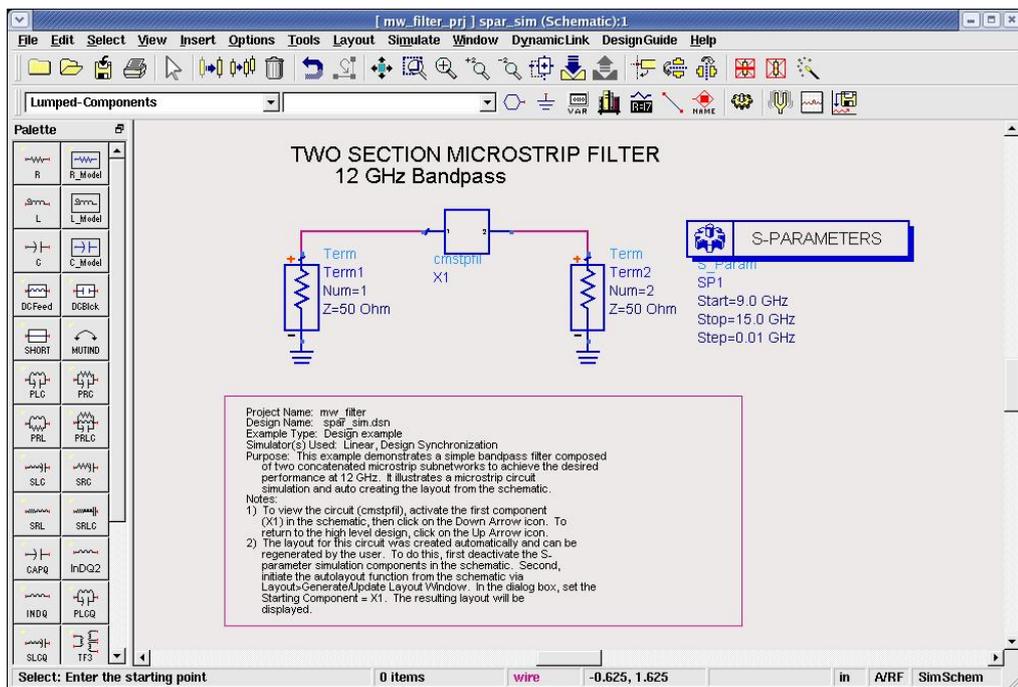
Copy Project ダイアログ・ボックスの From Project欄に、プロジェクト **mw_filter_prj** が入力されます。



[OK] ボタンをクリックすると、プロジェクト **mw_filter_prj** が To Project 欄に示されたホーム・ディレクトリ下にコピーされ、コピー後に自動的にオープンされます。

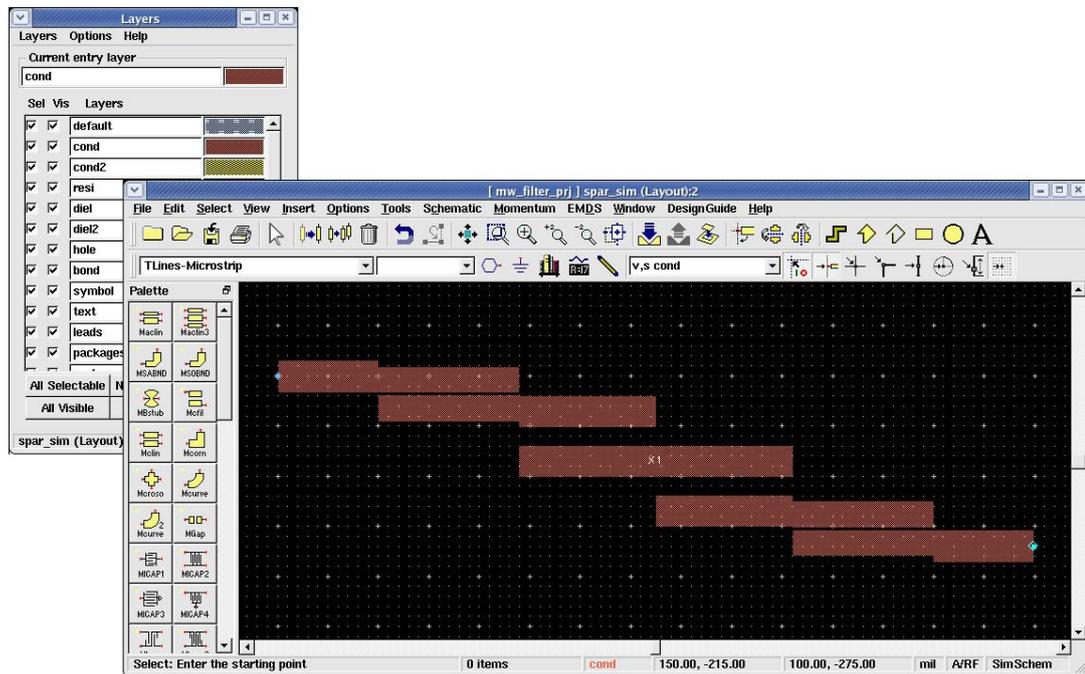
サンプル・プロジェクト **mw_filter_prj**を開くと、下記のようなウィンドウが開きます。

○ スケマティック（回路図）・ウィンドウ



解析対象の回路、信号源、シミュレーション設定等のコンポーネントが配置されています。

○ レイアウト・ウィンドウ



マイクロ・ストリップライン・フィルタの物理形状を示しています。
左側の Layersウィンドウでは、レイアウトのレイヤー情報と、設定変更を行うことができます。

注意 この時、お持ちのライセンスの種類によっては、ライセンス・エラーが発生する場合があります。(レイアウト機能の使用には **ads_layout** ライセンスが必要)

(3) シミュレーションを実行してみます。

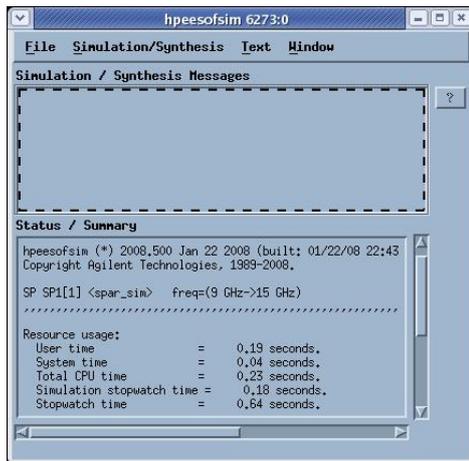
スキーマティック・ウィンドウで、**Simulate > Simulate** メニュー、或いは、ツール・バーの [Simulate] ボタンを選択すると、シミュレーションが実行されます。



注意 この時、お持ちのライセンスの種類によっては、ライセンス・エラーが発生する場合があります。(S-Parameter解析の実行には **sim_linear** ライセンスが必要)

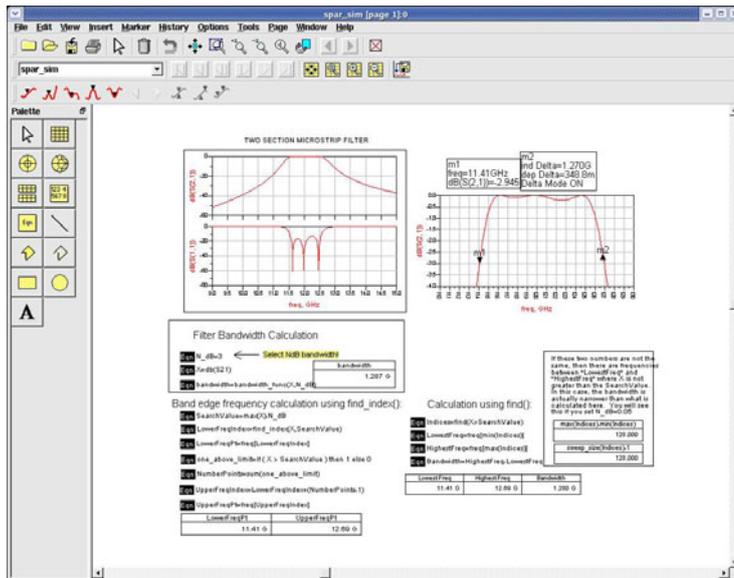
下記のウィンドウが表示されます。

○ステータス・ウィンドウ



シミュレーションの進行状況、エラー情報等を表示します。

○データ・ディスプレイ・ウィンドウ



シミュレーション結果を、図表で示します。

参考 シミュレーションの実行時にメモリ不足エラーが出た場合は、仮想メモリを増やす必要があります。本ソフトウェアでは仮想メモリは最低 300MByte/推奨 512MByte以上となっています。

(4) 動作確認の終了

データ・ディスプレイの表示まで、正常に行うことができれば、ADS 2008の基本動作については問題ありません。

メイン・ウィンドウで **File > Exit Advanced Design System** を選択して ADS 2008 を終了します。

5-5 ADS 2008 が起動しない時

ADS 2008 が起動しない時の対処方法を説明します。

ADS 2008 が起動しない場合の原因の殆どは、ライセンスのセットアップの誤りです。まず、ライセンスが正しく取得できているかをお確かめ下さい。
ライセンスの確認方法を含めた対処方法を以下に示します。

《代表的なエラー表示ダイアログ・ボックスの例》



先頭部分に **Cannot find license file** = “ライセンス・ファイルが見つからない” というエラー内容が記載されています。

また、最下段の **FLEXnet Licensing error: -1, 359. System Error: 2 No such file or directory** には、**詳細なエラー内容**と、その**エラー・コード**が表示されていますので、原因究明の手掛かりになります。

- (1) 環境変数は正しく設定されていますか？

環境変数 **AGILEESOFD_LICENSE_FILE** は正しく設定されているでしょうか？

AGILEESOFD_LICENSE_FILE で設定された場所に **license.lic** ファイルが存在するか、或いは、**指定されたライセンス・サーバとの通信が可能**であるかどうかを、もう一度ご確認ください。

同様に、下記の環境変数が正しく設定されていることをご確認ください。

HPEESOF_DIR **ADS 2008 のインストール・ディレクトリ・パス**
→ 他のバージョンの ADS を指していませんか？

PATH **コマンド・サーチ・パス**
→ **\$HPEESOF_DIR/bin** が含まれていますか？

環境変数の詳細については、**5-1 節**をご覧ください。

(2) ライセンス・ファイルは正しく設定されていますか？

- (i) “license.lic” ファイル中の **SERVER 行**の記述は正しいですか？
ホスト名、HOST ID をもう一度ご確認ください。
- (ii) “license.lic” ファイル中の **VENDOR 行**の記述は正しいですか？
サーバ・マシン上の正しいベンダ・デーモンのパスを入力してください。
- (iii) ライセンス・ファイルは**正しいディレクトリ**に置かれているでしょうか？
環境変数 “**AGILEESOFD_LICENSE_FILE**” の内容と、実際に **license.lic** ファイルが置かれている場所を確認してください。
- (iv) **正式なライセンス・ファイル以外のテキスト・ファイル**が置かれていないでしょうか？
例えば、古いライセンス・ファイル(**license.dat**)等がライセンス設置フォルダにあると、**ADS 2008** はそれらのファイルの内容も参照し、ライセンス取得に失敗する場合があります。
ライセンスフォルダ(**\$HPEESOF_DIR/licenses**)には、現在有効なライセンス・ファイル以外のファイルは、バックアップ用も含めて置かないようにお願いいたします。

(3) ハードウェア・キーは正しく接続されていますか？

ハードウェア・キーを使用する場合、**FLEXid** ドライバがインストールされていることもご確認ください。

(4) ライセンス・バンドルの選択は適切ですか？

License Preference Tool でライセンス・バンドルの選択状態を確認してください。

ライセンス・バンドルが無い環境で、ライセンス・バンドルの選択設定が行われている場合も、ライセンス・エラーの原因となります。

(5) サーバ・マシンでライセンス・デーモンは動作していますか？(ライセンス・サーバでの設定)

Solaris / Linux 環境では、ライセンス・サーバが動作していることが必要となります。

ライセンス関連の設定詳細については、

Part3.ライセンスの設定 第6章「**ライセンスの設定**」
をご参照ください。

(6) コンピュータの時間は正確に合っていますか？

コンピュータの時刻が正確ではないと ADS 2008 が起動しない場合があります。コンピュータの時刻を正しく設定してください。

ターミナル・ウィンドウで **date** コマンドを実行し、表示される時刻を確認してください。

例) \$ **date**

Fri Feb 1 12:27:07 JST 2008

以上の項目を調べても原因が分からない時は、**EDAテクニカルサポート**までご連絡下さい。

原因を特定するために、予め**ソフトウェアのバージョン、OS のバージョン、エラー・メッセージ、発生条件と頻度等の情報を整理**して、正しくお伝え下さい。

また、デバッグ情報のログ・ファイル作成をお願いする場合もございますので、

Part4.その他の設定、トラブルシュート 7-8節「デバッグ・モードでの起動」にも目を通しておいてください。

ご質問の際にFAXを使われる場合には、**Part1.インストール前の確認事項**に付属している「EDAテクニカルサポート サポート依頼 FAX 用紙」をご利用ください。